

特別支援学校における初任者教員の専門性向上に関する研究

小幡 明子

特別支援科学コース

1. 問題の所在

教員として最も専門的な仕事は「授業」だが、授業づくりにおいてつまずき、不安を感じている教員は少なくない。佐藤（2018）は、初任者及び2年次教員が「授業の構成」「教材」「子どもの参加」への自己評価が低く、課題があるとしていた。また、和井田（2020）は、「新任の先生は、仮採用のような立場を気にして、悩んでいることやうまくいっていないことを周囲に言いづらい」「若い先生の悩みに身近な教員が寄り添えるような工夫が求められる」と述べていた。一方で、特別支援学校の授業づくりに焦点を当て、苦手意識を把握する調査はこれまでほとんどなかった。こうした中で、特別支援学校の教員の苦手意識の現状と課題を検討し、研修用教材を作成できれば、授業づくりに対しての不安やつまずきが減り、専門性の向上につながるのではないかと考えた。

そこで、本研究では、特別支援学校の教員の授業づくりに関する研修ニーズを把握し、校内初任者研修における専門性向上のためのサポート体制について検討することを研究の目的とした。

2. 方法

本研究では、まず、茨城県教育研修センターに調査協力を依頼し、年次研修対象者に授業づくりの苦手意識や研修ニーズのアンケート調査を実施した。次に、調査で把握した初任者教員の授業づくりの苦手意識や研修ニーズに応じた研修用教材を作成した。さらに、作成したものを知的障害特別支援学校（A校）の初任者教員に視聴してもらい、視聴後に聞き取り調査を行った。以上を通して、校内初任者研修における専門性向上のためのサポート体制のあり方を検討した。

3. 研究の概要

第1章 特別支援学校の教員の授業づくりにおける苦手意識の調査

(1) アンケート調査の対象と項目

茨城県教育研修センターにアンケート調査の協力を依頼し、新規採用教員研修（初任者・2年次・3年次）及び中堅教諭等（前期・後期）資質向上研修の受講教員に対し、特別支援学校の教員の授業づくりについての研修ニーズを調査した。項目は、「初任教員の研修ニーズに関する意識調査」（佐藤 2018）と茨城県教育研修センターの「基本研修（特別支援学校）研修の手引き」に掲載されている授業評価表を参考にし、授業づくりのポイントが含まれるように作成した。

(2) アンケート調査の結果

全体的な傾向として、経験年数が上がるにつれて「（できると）思う」「やや思う」の割合が増え、「あまり思わない」の割合が減っていた。その中で、「環境の整備」については、初任者教員

も「(できると)思う」と回答した割合が高かった。一方で、「児童生徒に対する適切な評価」については、どの年次においても「(できると)どちらかというと思わない」と回答した割合が高かった。「初任者教員」と「中堅教諭等(後)教員」を比較し「(できると)思う」と回答する割合が有意に差の見られた項目は、「授業の構成や展開の工夫」(図)「同僚とのコミュニケーション」であった。また、「実態把握」「実態に応じた教材教具の準備」「ティーム・ティーチング」は、有意傾向の差が認められた。また、自由記述から初任者教員は、指導案作成や学習評価に関する研修の要望や、教材教具の具体例や実態把握の方法を知りたいという「基本研修」を求める声がみられた。

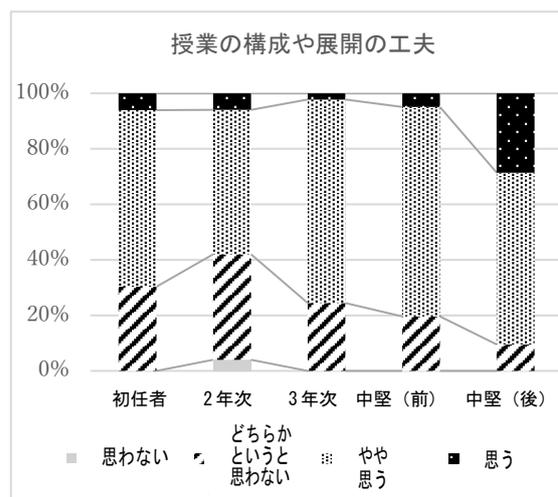


図 授業づくりにおいて「できる」と回答した割合

第2章 研修用教材の作成と活用、視聴後の聞き取り調査

(1) 研修用教材の特徴

以上の結果をもとに初任者教員の悩みを解決できるオンデマンド教材を設定した。作成したオンデマンド教材の種類は、アンケート調査から有意に差が見られた「授業構成」「実態把握と目標設定(実態把握から目標設定までの研修が必要から目標設定を追加した)」「ティーム・ティーチング」とするとともに、初任者教員指導で多くの時間をかける「教材観」をテーマとした。研修用教材をA校の初任者教員に視聴してもらい、視聴後に聞き取り調査を実施した。

(2) 聞き取り調査からみえたオンデマンド教材の効果と課題

「オンデマンドでの教材の視聴」という研修方法については、「途中で停止したり、繰り返したりしながら自分のペースで見ることができ、よかった」という感想があった。このことから、時間を有効的に活用でき、自分の都合に合わせた視聴方法により研修ができるという点において、校内研修の方法の一つとしてオンデマンドという方法は、有効であると考えた。また、「授業づくりに関する知識を得たり、再確認したりすることができた」という感想もあった。さらに、「自分の授業を振り返り、ここがまだできていないと反省した」「次はできるようにしたい」という感想もあった。以上のことから、作成したオンデマンド教材の内容は、授業づくりの専門性を向上させることにつながると推察できた。一方で、アンケート調査の中で「先輩教員と話しをする時間の確保の難しい」とあったため、初任者教員が先輩教員と話し合いを通してつながりサポートを受ける方法については、今後の課題であると考えた。

4. 考察

今後は「オンデマンドだからできる研修」「対面だからこそできる研修」というように、内容に応じた効果的な研修方法を見極め精選することを通して、校内研修をデザインしていくことが必要なのではないかと考えた。初任者教員が自ら気づき、成長していく場として、また先輩教員と共に支え合うことができるような場として校内研修を進めていく必要があると考えた。